

平成 22 年 3 月 28 日

研究種目：特定領域研究

研究期間：2007～2012

課題番号：19046007

研究課題名（和文） 意思決定過程のマイクロ分析

研究課題名（英文） Micron-analysis of decision making process

研究代表者

竹村 和久 (TAKEMURA KAZUHISA)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：10212028

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学 3901

キーワード：意思決定過程、リスク、不確実性、選択、選好形成、社会的意思決定、眼球運動分析、状況依存性

1. 研究計画の概要

本研究は人々の意思決定過程の特徴を、動物に関する行動分析学の視点と行動意思決定論の視点を統合しながら把握することを目的とした。また、本研究では、社会的状況における意思決定の微視的過程を種々の基礎心理実験と調査を通じて解明した。そしてその状況依存性を理論的観点から説明し、予測可能な心理計量モデル、その数理心理モデルを構成し、さらに、この数理心理モデルを実証的観点から検討した。とくに、本年は、選好の形成について集中的な検討を行った。これは、人間に関する行動的意思決定論の研究や動物の行動分析研究などでも重要な位置を占めるが、あまり研究は多くない。単純接触効果などの古典的研究や最近では、下條らのゲイズカスケード説などがあり。我々は、検討の結果、これらの理論とは異なり、選択する習慣が選好を形成するとの仮説を形成した。そのため、他の理論との比較を行いながら、これらの仮説を検討する。

2. 研究の進捗状況

(1) 習慣が選好形成に影響を及ぼす効果の研究 動物に関する行動分析研究で用いられる強化スケジュールや刺激の心理物理学的観点からの提示によって人間の選好形成に及ぼす要因の効果を実験的に検討した。

(2) 選択肢が無差別のときの選好の形成過程の研究 動物の行動分析研究で用いられているような強化スケジュールを人間に適用することによって、選択肢が当初無差別の状況において、どのように選好が形成され

るかを検討した。

(3) 注意と選好形成の研究 眼球運動測定装置を用いて注意と選択行動の関係を計量的に分析した。

(4) 選好形成のプロセス研究 選好がどのように形成されるか。眼球運動測定装置や皮膚電位抵抗、生理測定装置を用いて認知過程を検討した。

研究の成果については国内外の学会で発表を行ったほか、国際的な研究集会も開催し、国内外の研究者との意見交換を行った。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

今後も意思決定過程におけるマイクロ分析を行うが、特に、選好の形成過程とその社会的影響について、集中的な検討を行う予定であり、また、個人間の相互作用も検討する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 36件)

1. Fujii, S., Van, H.T.. (2009) Psychological determinants of the intention to use the Bus in Ho Chi Minh City. *Journal of Public Transportation*, 12 (1), pp. 97 - 110. 査読有

2. 羽鳥 剛史・黒岩 武志・藤井 聡・竹村 和久,

- (2009)道徳性発達理論に基づく土木技術者倫理に関する実証的研究-倫理規定の解釈可能性が土木技術者の倫理性に及ぼす影響-, 土木学会論文集 D, pp.262-279. 査読有
- 3.Choocharukul, K. Van, H.T.and Fujii, S. (2008) Psychological effects of travel behavior on preference of residential location choice, Transportation Research A, 42 (1), pp. 116-124. 査読有
- 4.Silberberg, A., Roma, P. G., Huntsberry, M. E., Warren-Boulton, F. R.,Sakagami, T., Ruggiero, A. M., and Suomi, S. J. (2008). On lossaversion in capuchin monkeys. Journal of the Experimental Analysis of Behavior, 89, 145-155. 査読有
- 5..Tanno, T., and Sakagami, T. (2008). On the primacy of molecular processes in determining response rates under variable-ratio and variable-interval schedules. Journal of the Experimental Analysis of Behavior, 89, 5-14. 査読有
- 6.竹村和久・井出野尚・大久保重孝・松井博史 (2008) 神経経済学と前頭葉, 分子精神医学, 8(2), 35 - 40 . 査読無
- 7.井出野尚・竹村和久 (2007)潜在的連想テストを用いたリスク・マップの作成 日本感性工学会研究論文集, 7(1), 101 - 110. 査読有
- 8.. 諸上詩帆・岩間徳兼・大久保重孝・竹村和久 (2007) 時間的制約が消費者の購買意思決定課題に及ぼす影響 眼球運動測定装置を用いて 日本感性工学会研究論文集 7(2), 275-282. 査読有
- 9..Takemura,K(2007) Ambiguous comparative judgment: Fuzzy set model and data analysis. Japanese Psychological Research, 49(2), 148-156. 査読有
- 10.Takemura,K. and Selart,M. (2007) Decision making with information search constraints: A process tracing study. Behaviormetrika, 34(2), 111-130. 査読有
- 11.Fujii, S. (2007) Communication with non-drivers for promoting long-term pro-environmental travel behaviour, Transportation Research D, 12, pp. 99-102. 査読有
- 12.藤井 聡 (2007)_公共事業をめぐる世論における“沈黙”の分析, 心理学研究, 78 (2), pp. 157-164. 査読有
- 13.Ishii, T., & Sakagami, T. (2007). Reinforcement omission inconcurrent fixed-interval and random-interval schedules. Behavioural Processes, 74, 334-341. 査読有
- 〔学会発表〕(計 41 件)
1. 竹村和久, 坂上貴之, 藤井聡(2009)意思決定における選好形成過程 日本心理学会大会ワークショップ
〔図書〕(計 10 件)
1. 竹村和久 (2009) 行動意思決定論 - 経済行動の心理学 日本評論社査読無
2. 坂上貴之(2009) (編著) 意思決定と経済の心理学 朝倉書店 査読無
3. 竹村和久 (2008) 意思決定過程の心理学 子安増生・西村和男(編) 経済心理学のすすめ 有斐閣, 45-68. 査読無
- 4.Fujii, S. and Garling, T. (2007) Role and acquisition of car-use habit, In Tommy Garling and Linda Steg (Eds.), Threat from Car Traffic to the Quality of Urban Life: Problems, causes, and solutions, Elsevier, pp. 235- 250. 査読有
- 〔その他〕
ホームページ:
<http://www.waseda.jp/sem-takemura/>
<http://trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp>